

WL04(Aタイヤ)&WL06(Dタイヤ) ウィンドランチャー 取扱説明書

このたびはウィンドランチャーをお買い上げいただきありがとうございます。
組み立てる前に下記を良く読んで組立をしてください。

箱に入っているパーツを確認します。

NO	品番	品名	数
1	WL04-A	WL04 前フレーム 1200mm	1
2	WL03-B	受けフレーム 680mm	2
3	WL03-C	車軸フレーム 500mm	1
4	WL04-D	WL04 後受け高さフレーム 300mm	1
5	WL04-E	WL04 前受け高さフレーム 315mm	1
6	Z402	クッションチューブ 250mm	4
7	IB040038AB	38角ブラケット38mm 3穴 (旧品番S-535)	2
8	IB040090AC	38角ブラケット90mmジョイント (旧品番OL-11N)	2
9	IB040120AD	38角ブラケット120mmヒールブラケット (旧品番S-561)	1
10	MTP001	カムベルト25mmx4M 黒	2
11	Z506-4	車軸シャフトWL03, BY300, 50, 520	2
12	JS208	車軸シャフトカラーJ-130S, BY300, WL	2
13	TA40A	Aタイヤ ヘアリング 4.80/4.00-8新キャップ	2
13	TA30D	Dタイヤ ヘアリング 410/350-5ボス幅82mm	2
	P04-6-55	SUS六角ボルト6-55	18
	P04-6-45	SUS六角ボルト6-45	2
	P08-06	SUS蝶ナットM6	2
	P07-06	SUSナットM6	18
	P05-06	SUSスプリングワッシャー-M6	18
	Z521	Dリング	2



コチラのQRコードより
弊社通信販売にて
交換部品販売しております。

WL04(Aタイヤ)
WL06(Dタイヤ)

■使用する工具
モンキーレンチ
◎スパナ10番

- 組立をする前に完成写真をよく見て、全体のイメージを頭の中で作ってください。
各ネジ類を締める際は潤滑剤等を塗付して締めるようにしてください。

■組立手順

■フレーム組立手順

●前受け部

前受け高さフレーム 315mmに連結固定金具Aを付け受けフレーム 680mm を通しボルトM6-55、スプリングワッシャー、ナットにて固定します。

クッションチューブを受けフレームに通して板ゴムコードをパイプに通します。

(クッションチューブは水に濡らすと入り易いです)

※前受け高さフレームの中央にある穴2個は別売自転車牽引オプションパーツ取付用です。

●曲げ部

前受け高さフレームと前フレームをヒールブラケットでM6-55、スプリングワッシャー、ナットにてジョイントします。

●後受け部

後受け高さフレーム 300mmに連結固定金具Aを付け受けフレーム 680mm を通しボルトM6-55、スプリングワッシャー、ナットにて固定します。

クッションチューブを受けフレームに通して板ゴムコードをパイプに通します。

(クッションチューブは水に濡らすと入り易いです)

※後受け高さフレームの中央にある穴2個は別売自転車牽引オプションパーツ取付用です。

●前フレームジョイント部

後受け高さフレームにジョイントブラケットを取り付けて前フレームをジョイントします。

この部分は分解ができるようボルトM6-55と蝶ナット2個を使用します。

●車軸部

車軸フレームに車軸シャフトカラーと車軸シャフトを入れボルトM6-45を差しスプリングワッシャー、ナットで固定します。
最後に車軸シャフトにタイヤを差し込んでDリングを差し完了です。

■使用上の注意

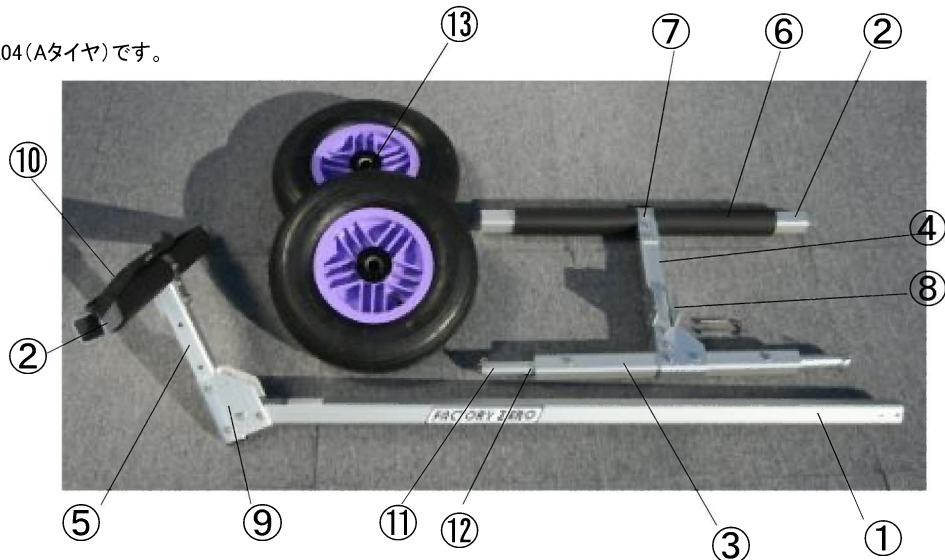
- 取扱説明書、パーツ表等は大切に保管してください。
- このランチャーはウィンドサーフィン、ロングボード用ですので無理な積載は破損の原因になりますのでおやめください。
- 動力での牽引は絶対にしないでください破損の原因になります。
- ご使用前には必ずボルト&ネジ類のゆるみがないか確認してください、ゆるんだまま使用しますと事故、破損の原因になります。
- ご使用前には必ずボルト&ネジ類のゆるみがないか確認してください、ゆるんだまま使用しますと事故等危険です。
- すり減った板ゴムでのご使用は大変危険ですので、必要に応じて交換してください。
- 艇の重心はタイヤの少し前にくるように乗せてください。
- 素手足で不用意にパイプのカット部等触れますとケガの原因となります、必ずグローブ&ブーツを着用のうえご使用ください。
- 誤った組立て、もしくは使用方法での苦情には応じかねますのであらかじめご了承ください。

WL04(Aタイヤ) & WL06(Dタイヤ) ウィンドランチャー

写真はWL04(Aタイヤ)です。



完成写真



受けフレーム 連結固定金具A 前受け高さフレーム



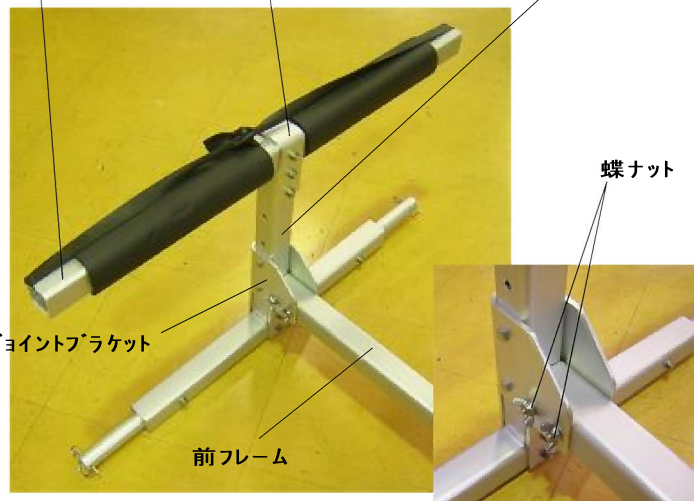
●前受け部

前受け高さフレーム315mmに連結固定金具Aを付け受けフレーム680mmを通します。
クッションチューブを付け板ゴムコードをパイプに通します。
※前受け高さフレームの中央にある穴2個は別売自転車牽引オプションパーツ取付け用です。

●曲げ部

前受け高さフレームと前フレームをヒールブラケットでジョイントします。

受けフレーム 連結固定金具A 後受け高さフレーム



●後受け部

後受け高さフレーム300mmに連結固定金具Aを付け受けフレーム680mmを通しクッションチューブを付け板ゴムコードをパイプに通します。(板ゴムを通す際、切れる恐れがありますので中央のネジにかからないように通して下さい。)

同じく下側には車軸フレームを連結固定金具Aで取付けます。
※後受け高さフレームの中央にある穴2個は別売自転車牽引オプションパーツ取付け用です。

●前フレームジョイント部

後受け高さフレームにジョイントブラケットを取付けて前フレームをジョイントします。この部分は分解ができるよう蝶ナット2個を使用します。

車軸フレーム

車軸シャフトカラー

車軸シャフト

●車軸部

車軸フレームに車軸シャフトカラーと車軸シャフトを入れボルトM6-45を差しスプリングワッシャー、ナットで固定します。

ボルトM6-45を差しスプリングワッシャー、ナット



最後に車軸シャフトにタイヤを差込んでDリングを差し完了です。

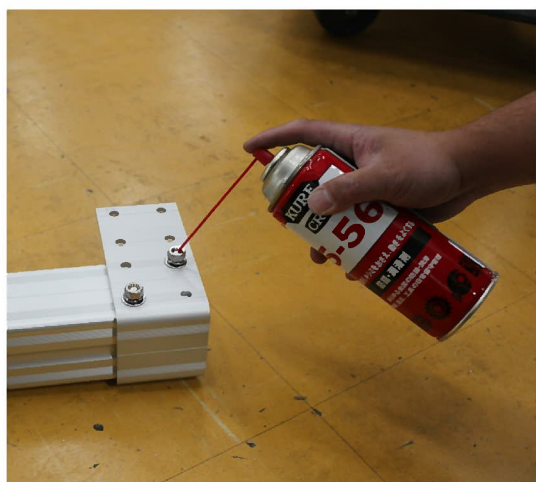
<<ボルトの締め付け、取扱い注意>>

ステンレスのボルトやナットをインパクトレンチなどで急激に締め付けるとネジの嵌め合い部で摩擦による熱が発生し、その熱によってネジ部が膨張し、オネジとメネジが密着し焼付きを起こし動かなくなることがあります。そのまま締め付けていくとボルトが折れることもありますのでご注意ください。
また必ず潤滑剤を塗布してから締め付けをしてください。

ナイロンナットにはすでにオイル等を塗布してパックされていますが、地面に落としたり、砂埃で砂が付着した際はきれいにしてから再塗布をし締め付けをしてください。



急激な 締め付け注意！



潤滑剤を塗布してください。



タイヤご使用上の注意

このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
弊社のエアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

TA40F/TA40G/TA40J（ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用）

- チュープレスタイヤですのでチューブは入っておりません。
- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。特に夏場は直射日光で内圧が高まりますので必ず数値内でご使用下さい。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が低下するとタイヤの内圧が下がり、チュープレスタイヤなので空気が抜けてしまう場合が有ります。船を載せて保管される場合は時々空気圧のチェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置すると、ヒビ割れして空気の再注入が不可能となってしまいます。長期保管の場合には、台車の下にブロック等を入れておく事をお勧めします。
- エアー漏れでも早期に対処していただければ十分再生します。時々点検していただくようお願い致します。

TA40A(アルミランチャー、トランサムドーリー等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。
- 交換用タイヤ(外側)とチューブは別途販売しています。適宜交換下さい。

TA30D(サーフ系ランチャー、Z071 前輪等に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0kg～1.5kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。

上記全てのタイヤについて

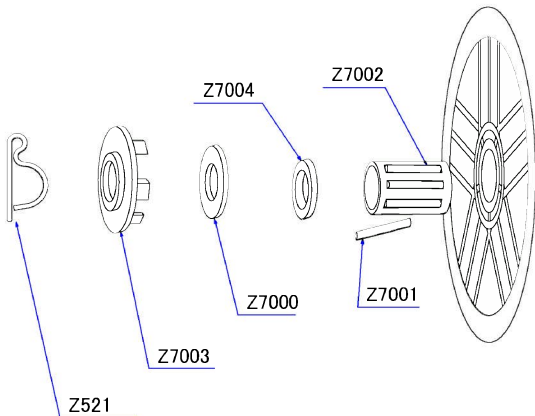
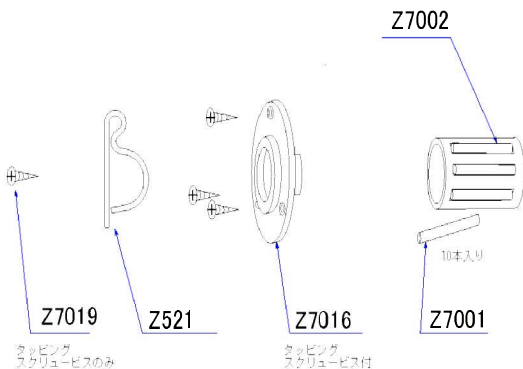
- 車軸部にベアリングが内蔵してあります。ベアリング部にはグリス等を塗布しないようにして下さい。砂、埃、が付着して磨耗の原因となります。ベアリング部は良く水洗いしてください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気は、ガソリンスタンド等に置いてある自動車、バイク用の空気入れで入れられます。一般自転車用の空気入れではバルブ形状が合いません。詳しくはHPご覧ください。

空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1

2018年よりTA40系のベアリングが変更になりました。

下記、相違表をご確認ください。

	旧	新
	2017年まで	2018年から
品番	TA30系	TA40系
キャップ色	ブラック	グレー
固定方法	打ち込み式	ビス止め式
キャップ		 ※適宜ゆるんでないか確認してください。
リム形状	 打ち込み式の形状です	 ※穴は2つ並んであります ビスが締め切らなくなりましたら 隣の穴をご使用ください。 ビス用の穴があります
部品図		
	部品図のZ7003は TA40系には使用できません	部品図のZ7016は TA30系には使用できません